



雲の上にはいつも...



【No.4】藤城小学校 校長室より（不定期刊）

先週は人権にかかる授業の参観および懇談会に、多くの保護者のみなさまの参加をいただき、ありがとうございました。また、先日の大文字駅伝予選会での温かなご声援、子どもたちの背中を押していただき、感謝しております。

♪「ぞうさん／ぞうさん／おはなが ながいのね／そうよ／かあさんも ながいのよ～」♪

唐突ですがこの歌、ご存じのことと思います。そう、『ぞうさん』。この有名な歌の歌詞を作ったのは『まどみちお』さんという詩人です。(3年前の2月に104歳で亡くなったステキな方ですよ！)

そうの子どもは他の動物の友だちから「鼻が長いね」とからかわれ、悪口を言われる。しかし、へこんだり腹を立てたりするのではなく、「そうよ、母さんも長いのよ」とあっけらかんと答える。そしてこの歌の2番では、そんな鼻の長い母さんのことが大好きなどと誇(ほこ)らしく言います。実はこの歌、そうとして生かされていることを喜んでいる、ぞうに生まれてうれしいぞう、という歌なのです。



さて、私たちが生きる人間社会。ぞうさんの鼻のように「他と違うこと」をどうとえているのでしょうか。他人より優れている違いは自慢するけど、劣(おと)っていることについては恥ずかしく感じ、隠そうとする。あるいは、うらやましく思ったり、妬(ねた)んだり....。どうやら私たち人間の社会では、他との違いを上下としてとらえる傾向があるようです。「いじめ」と呼ばれる問題がなかなかならないのも、そのあたりが原因の一つかもしれません。

「違い」を誇りに感じるぞうさんと、上下にとらえる人間と....

そもそもいったい、何が優れていることで何が劣っていることなのでしょう。今の世の中、芸能人もニュースもブログも、何もかもがランキングで決まり、いつの間にか「みんなが求めるものがいいもの」だと思わされている。そんな他人の言うことに惑(まど)わされて、自分の大切なところを見失わないようにしたいものです。

12月は人権月間。だからというわけではないのですが、いま、目の前にいるわが子の幸せを確かめてみましょう。つい欲張りな私は、あれもこれもと多くの幸せを考えてしまうのですが、一つだけ選ぶとすると.... ? どうでしょう。わが子のどんな幸せの条件を選びますか?きっとそれは他と比べる幸せではなく、「笑顔」のようにそれだけで100点満点の幸せではないでしょうか。その幸せのために私たち大人、頑張らなくちゃいけませんね。子育ても学校の教育活動も、「子どもがより幸せになる」こと、その一点のためのものなのですから。



「ありがとう」の反対は なんだろう...

以前のこと。「ありがとうの反対は何だと思う?」と子どもに訊(き)くと、う~んと考え、「どういたしまして かな?」や「バカとかアホとかかな?」といった返答。確かにちょっと考えてしまいますが。

実は「ありがとう」の反対は「あたりまえ」です。何でもやってもらってあたりまえと思っている人は「ありがとう」の言葉が出づらいとか....。「ありがとう」のひと言は、わが子と子育てを見る一つのポイントにもなります。



お願 い

来週金曜日(12月1日)の午後1時20分から「ふれあい清掃」(学校運営協議会主催)を行います。児童と保護者・地域が協力し合い、学校をきれいにしようという取組です。そういえば窓ふき用タオル、マスク等をお持ちいただければ助かります。ご都合をつけていただき、わが子といっしょに楽しんで掃除を!

「まちがい」って「ゆるす」ものの？

その気はなくても、起こしてしまうのが「まちがい」。失敗やまちがいのない人間はいません。まちがいを起こしたらどうするのか。お家でも「ごめんなさい」のしつけをされていることだと思います。

重松清という作家の『ファミレス』という小説の中に、次のような言葉があります。



優しさはまちがいを許すことじゃなくて、「認める」ことなんです。まちがいをなかつたことにはしない、ということなんです。

怒りを持ったまま、悲しみを持ったまま、それらをまとめて包み込むことが優しさだと思う、と小説では語っています。わが子のまちがいも、叱(しか)りはするけど「認める」ことが、親としての優しさなのかもしれません。

